

ホットライン

第9回日印セミナー

(The 9th JIIA-IDSА Bilateral Round Table)

日時： 2007年11月29-30日

場所： 日本国際問題研究所大会議室

主催： 日本国際問題研究所 (JIIA)
インド防衛問題研究所 (IDSА)

【日本側参加者】

平林博	日印協会理事長
寺田貴	早稲田大学准教授
古川勝久	科学技術振興機構主任研究員
松田康博	防衛研究所主任研究官
堀本武功	尚美学園大学教授
広瀬崇子	専修大学教授
菊池努	青山学院大学教授
伊豆山真理	防衛研究所主任研究官
向和歌奈	日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター研究員補
友田錫	日本国際問題研究所所長
長内敬	日本国際問題研究所主幹
伊地哲朗	日本国際問題研究所研究員

【インド側参加者】

ナレンドラ・シソディア	インド防衛問題研究所所長
スジート・ダッタ	インド防衛問題研究所主任研究員
GVC・ナイドゥー	インド防衛問題研究所主任研究員
アルピタ・マスール	インド防衛問題研究所准研究員

2007年11月29、30日の両日、日本国際問題研究所（JIIA）とインド防衛問題研究所（IDSA）は、当研究所大会議室で「日印セミナー」を開催した。両研究所共催によるこの会議は、1996年に第1回会合が開催されて以降、ニューデリーと東京で交互に開催されてきており、第9回目となった今回の会合では、日印関係および両国を取り巻くアジア・太平洋地域の諸問題について活発な議論が展開された。会議の概要は以下の通りである。

【セッション1：日印戦略的パートナーシップ】

2006年12月に「日印戦略的グローバル・パートナーシップに向けた共同声明」が発表されるなど、近年目覚ましい発展を遂げている日印関係の諸側面に関して、日印双方からの報告、そして引き続き包括的な議論が行われた。とりわけ経済分野において、両国経済は相互補完的であり、今後一層緊密さを増していくとの共通認識が得られた。日本側からは、インドにおけるインフラの未整備が、日本からの投資・貿易拡大の足かせになっているとの指摘があった。また政治・外交面では、民主主義や人権などの普遍的価値の共有が両国関係の基盤になっているという点で、日印間で見解の一致が見られた。その関連で、中国の権威主義的な体制に対し、両国がどのように向き合っていくのかという問題にも議論が及んだ。

【セッション2：核不拡散】

日本側からは、北朝鮮からの軍事的脅威や中国の台頭など、日本を取り巻く全般的な安全保障環境に関する説明がなされた後、日米同盟強化、ミサイル防衛、および核不拡散政策などに焦点を当てつつ日本の安全保障政策の輪郭を示す報告がなされた。インド側からは、核不拡散への確固たるコミットメントと最低限度の抑止力維持などを柱とする同国の核政策の概要が報告された。遅々とした核軍縮の進展状況やイラン、北朝鮮の核問題が国際的な核不拡散体制に及ぼす影響に懸念が示される一方で、民生用原子力協力に関する米国との合意は、インドのエネルギー安全保障にとって重要であるとの意見が出された。討論では、米印合意について、核拡散防止条約（NPT）体制との整合性、エネルギー安全保障や気候変動問題などの観点から、忌憚のない議論が展開された。

【セッション3：アジアの地政学的動向】

日本側の報告者は、経済的・軍事的に台頭する中国の将来像は依然不透明である一方、総合的国力が低下している日本は「普通の国」へと変貌を遂げつつあるとの情勢認識を披露した上で、アジアにおけるマルチラテラリズムは、北朝鮮問題などの影響もあり、停滞していると指摘した。インド側の報告者からは、台湾問題、北朝鮮問題、日中および日露関係など歴史的な緊張も根強く残っており、中国とインドが台頭する中、アジアにおける米国・中国・日本・インド・ロシアといった大国間のバランス・オブ・パワーが極めて流動的であるとの見方が示された。議論では、中国に対する対応がアジア地域の主要国にとって主要な外交課題になるとの見通しで一致が見られ、エンゲージメント、バランス、コンテインメントなど様々政策オプションの是非、あるいはその組み合わせのあり方に関して、活発な議論が展開された。また、中印関係の現状や、日中のナショナリズムの動向、パキスタンの内政が地域の安定に及ぼす影響などについても言及がなされた。

【セッション4：東アジアにおけるセキュリティ・アーキテクチャー】

日本側からは、内政不干渉の原則などの制約により、ASEANが安全保障分野で効果的な役割を果たせておらず、日米同盟など二国間の取り決めがアジア地域の安全保障の基軸となっているとの意見が出された。インド側からは、ASEAN地域フォーラム（ARF）に焦点を当てた報告が行われ、その役割は限定的なものにとどまっており、将来の方向性も未だ明確になっていない中、インドは懐疑的な立場をとっているとの見解が示された。討論では、ASEANがミャンマーなど地域の重要な問題に関して効果的な対応が打ち出せていないなど、その安全保障上の機能に関して否定的な見方が出る一方、感染症など人間の安全保障の領域で役割を果たす余地があるのではないかの指摘があった。また日印双方から、アジア地域の安全保障枠組み構築における米国の役割の重要性を指摘する意見が出された。